

政務活動報告書

議員名 佐藤 誠洋

実施した政務活動の内容	<input checked="" type="checkbox"/> 研修 <input type="checkbox"/> 視察・調査 <input type="checkbox"/> 陳情・要望	
実施日	令和 平成 / 年 6月26日(水) 午前 午後 8 時~ 令和 平成 / 年 6月28日(金) 午前 午後 7 時~	
場所	鳥取県琴浦町・境港市・智頭町	
主催区分	<input type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 会派 <input type="checkbox"/> その他()	
同行者名	塩田勉・佐味喜一・播磨博一・寿松本孝	
行程及び経費	行程(交通機関、算定根拠、人数按分など)	経費 (単位:円)
	別紙の通り	
		経費合計 73,946
実施概要と所感	別紙 研修報告書参照,	

※同じ項目がある場合は他の様式でも可とします。

※政党が主催する活動や研修セミナー、陳情は政務活動対象外となります。

※実施した内容がわかる資料、領収書、要望書等を添付してください。

※自家用車使用のガソリン換算方法を統一するため、同一箇所の往復の場合は、片道距離から換算した額×2(往復)でご記入ください。 距離につきましては、実測いただくか距離検索サイトでお調べください。

会派さきがけ＋1名 研修報告書

研修場所 鳥取県琴浦町・境港市・智頭町
研修内容 琴浦町 予約型ことうらバスの運行について
(スクールバスの活用)
境港市「水木しげる記念館」の現状
智頭町 疎開保険について
智頭町百人委員会について

参加者名 塩田 勉、佐々木 喜一、播磨 博一、佐藤 誠洋、寿松木 孝

研修日程 令和1年6月26日(水)～28日(金)

26日

秋田空港 - 羽田空港 - 米子空港 - 琴浦町 - 米子市内泊

26日

ホテル - 境港市「水木しげる記念館」 - 鳥取市内泊

27日

ホテル - 智頭町 - 鳥取空港 - 羽田空港 - 秋田空港

研修経費

*内容は別紙

合 計 369,730円 ÷ 5人 = 73,946円

一人当たり負担金 73,946円 以上の通り報告致します。

令和1年 月 日

佐藤 誠洋 (印)

[別紙]

月 日	金 額	適 用
6月20日	347,400	旅費(航空機・宿泊代・レンタカー代含む)
6月26日	1,080	高速代(ETCのため領収書なし)
	5,000	1,000X5 琴浦町研修資料代金
6月27日	3,500	700円 X5 水木しげる記念館入館料
6月28日	5,000	1,000X5 智頭町研修資料代金
	5,140	レンタカーガソリン代
	1,530	秋田空港駐車料金
	1,080	高速代(ETCのため領収書なし)
合 計	369,730 円	

2. 境港市「水木しげる記念館」の現状について

平成15年にオープンした水木しげる記念館、数年前にもこの記念館を視察したが、その時点ではゲゲゲの女房の放送後だったこともあり、それなりの賑わいを感じた。ただ、これらの施設はリピーターの確保が難しいとも言われていることもあり、その後の状況を確認すべく来館してきました。

施設の方の話では、平成29年～30年にかけて水木しげるロードや記念館、鬼太郎列車のリニューアルなどの効果もあり、来館者数は若干の伸びがあるとの内容でした。



*所 感

別紙

3 智頭町「疎開保険」・「百人委員会」について

智頭町で展開している疎開保険は、災害を切り口とした地域間交流や地域おこしも視野に入れた事業だった。

地震などの災害が発生した場合に疎開していただき1泊3食7日間の生活を保障する仕組み、保険代金は一人10000円/年、ファミリー3～4人コースが20000円で加入できるとのことで、現在150名ほどの加入実績との事であった。

また、百人委員会については、高校生以上の町民や町内に勤務をされている方々を委員とし、7つの部会に分かれて所属していただき政策提案をし、町長等と予算交渉を経て議会が審査する仕組みで地域の声をダイレクトに反映させる仕組みであった。

*所 感

別紙



別紙 政務活動報告書感想など

1、 境港市

げげげの鬼太郎記念館を中心とした街づくりをして、観光客を呼び込む賑わいづくりの成功例であった。

地元出身の作家の全面的なご協力（金銭的な面も含む）で、商店街は、楽しい通りであった。また、大型クルージング船を誘致して、新たな観光客を呼び込んで、通りの賑わいを持続させていた。一時の流行りではない本物のまちづくりに取り組んでいたことは、横手市は参考となると感じた。

2、 琴浦町

予約型ことうらバス（スクールバス混乗化）については、町長から直接説明頂き、トップの思いが「何とかする」方向になり、住民サービスの向上に結びつくのだ、と改めて感じた。横手市では、これまで、法的な問題、補助金の縛り、教育上の観点から子供独占という理由から実現の方向性は全く無かった。が、この研修により、少なくとも法的な問題、補助

金の縛りは、「トップの意思」で可能である、ことを学んだ。「トップの思い・覚悟」の善し悪しがいかに政策推進の是非を決定するのか、印象深い研修となった。

3、智頭町

智頭町「疎開」保険は、全国初で独自に企画した災害を切り口とする地域間交流、物流、商流による地域おこし。保険なので、いざという時の備えであることだが、智頭町は、周りが高い山に囲まれた清流が流れる古くからの宿場町として栄えた林業の町だ。森林セラピーで、都会で暮らすストレスを解消することも売りだ。こうした取り組みを住民主体で行うことで、地域住民が自らの土地と文化、暮らしの良さを再発見し、誇れることも重要な政策であると感じた。大阪、京都、岡山、鳥取から近いことを武器に、「住民の気づき」を促し、外貨を稼ぐ、「覚悟を持った街づくり」の実践であると感じた。